

富士山 石川丈山

仙客来たり遊ぶ雲外の巔
仙客来たり遊ぶ雲外の巔

神龍栖み老ゆ洞中の淵
神龍栖み老ゆ洞中の淵

雪は紈素のごとく煙は柄のごとし
雪は紈素のごとく煙は柄のごとし

白扇倒懸る東海在天
白扇倒懸る東海在天

〔現代語訳〕

仙人が来て遊んだという、雲よりもずっと高い山の頂。

神龍が久しく棲んでいるという、洞窟の中の淵。

雪は白絹のようであり、たちのぼる噴煙は柄のようである。

まるで東海の空に白い扇が逆さまにかかっているようだ。

泊^ス天草^{なだニ}洋^ニ

頼山陽

雲^カ耶^カ山^カ耶^カ吳^カ耶^カ越^カ

雲か山か呉か越か

水^ハ天^ハ髻^{フツ}髻^{フツ}青^{セイ}一^{イツ}髪^{ハツ}

水天髻髻青一髪

万^マ里^リ泊^ス舟^{フナ}天^テ草^{ソウ}洋^{ヨウ}

万里舟を泊す 天草の洋

煙^{エン}横^{ヨコ}篷^{フシ}窓^{マダラ}日^ヒ漸^{ヤス}没^ス

煙は篷窓に横たわりて 日漸く没す

瞥^{ベツ}見^{ケン}大^{ダイ}魚^{イサ}波^{ナミ}間^マ跳^ト

瞥見す 大魚の波間に跳るを

太^{タイ}白^{ハク}当^{タリ}船^{セン}明^{メイ}似^ニ月^{ツキ}

太白船に当たりて明月に似たり

〔現代語訳〕

(海上はるか彼方に見えるのは) 雲か、山か、(それともはるか大陸の) 呉の国か、越の国か。

(海の) 水と空とが接する(水平線の) 辺りには、青く髪の毛一筋ほどのものがぼんやりと見えているは。

万里ものはるかな道のりを旅してきて、この天草灘に舟泊まりすれば、夕もやがとま葺きの舟の窓の辺りにたなびいて、日は次第に(西の海に) 没していく。

大きな魚が波間に勢いよく飛び跳ねるのが、ちらっと見えた。

(すっかり日が暮れると) 宵の明星が船に向かって現れ、その明るさはまるで月のようであった。